

巻頭言 就任のご挨拶

内科学I教室 教授
今川 彰久



平成28年12月1日付けで内科学I教室教授に着任しました。一言ご挨拶を申し上げます。

内科学I教室は、糖尿病代謝・内分泌、呼吸器、血液、膠原病、神経という内科学の中の幅広い領域を対象に、診療・研究・教育活動を行ってまいりましたが、このたび、糖尿病代謝・内分泌、呼吸器・呼吸器腫瘍、血液の3つの領域をカバーする教室として新しくスタートしました。内科学の広い領域をバックボーンとすることで発展してきた旧第一内科教室の優れた伝統を受け継ぎ、それらの土台の上にフレッシュな力を加えることにより、それぞれの領域の深化とさらにそれら3領域の構成員の化学反応から生まれる新しい内科学の構築を目指しています。

内科学は診断学と治療学を両翼として発展して来たと思います。20世紀までは診断学が内科学の中心であったと思いますが、20世紀後半から、特に私が医師になってからの25年あまりの治療学の発展は目覚ましいものがあり、従来では外科の領域と思われていた治療にも内科が進出している状況です。そのこと自体は自分の担当する患者さんを何とか治療したいという想いをベースとしたものであり、肯定すべきことだと思います。一方、治療学を追求すればどうしても限られた専門領域に特化していくのもまた必然的な傾向です。ところが診断学があまりにも狭い専門領域に特化していくことには一定の留保が必要だと思います。言うまでもなく患者さんは臓器別ではなく、一人の人間であり、常に全人的な医療を求められています。このような状況を解決するため、一人一人の内科医には専門性と総合性、診断学と治療学のバランスが必要であると思います。

私は平成元年に新潟大学医学部を卒業し、大阪大学内科学第二教室及び関連病院で広く内科学の臨床研修を受けました。その後、専門領域として内分泌・代謝領域を選び、以来、1型糖尿病に関する臨床・研究を中心として仕事をして参りました。どんな領域の疾患であれ患者さんの訴えを傾聴できること、広く内科学全般の疾患の診断ができること、専門領域においては最新の治療を提供できること、そして1型糖尿病については、研究者として未来の患者さんも治療することを目標にしてきました。現在までの私のキャリアを生かし、後進の指導を第一の仕事と考え、大阪医科大学において、内科医としてさらに研鑽を続けていきたいと考えています。また、後輩の先生方との楽しい研究生活も続けていきたいと思っています。

どうぞご指導ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。